

市史編さん事業のあゆみと展望

一事業の中間地点をむかえて一

平成27年度から始まった市史編さん事業も今年度で5年目となり、山登りで例えると、ちょうど5合目にさしかかったところ。事業の後半は資料編の刊行も本格的にはじまり、いよいよ市史編さん事業も佳境に入っています。そこで本特集では、市史編さん事業を振り返り、これまで行ってきた主な事業についてご紹介し、また、事業後半へ向けて、今後の展望についても少し触れてみたいと思います。

新編立川市史 完成へのあゆみ

資料の収集・調査

資料がどこに・どれくらいあるか調べます。資料によって寄贈、借用、撮影など、取扱い方は様々です。また、歴史調査以外の専門的な解析が必要な場合、外部機関に調査委託します。

おもな資料収集先

市内外の資料館、研究機関、公文書館、社寺、個人宅など

資料形態はさまざま

古文書、書類、地図、絵図、写真、伝承土器、石器、石造物など

資料調査

聞き書きや祭り・行事への参加
種実圧痕分析、胎土分析
文書の解読など

修復

破損している資料の修復・復元を行うと新しい発見を得られる場合があります。

資料選定

市史に掲載すべき、重要な資料かどうか選びます。古文書など文章の解読が必要な資料は、目録化や整理後に改めて選定します。

執筆・編集

時代やテーマごとに文章をまとめます。部会内での執筆を経て事務局内でも編集作業を進めます。

刊行

各資料編に掲載した資料に基づいて、通史やテーマ編を記述します。また、幅広い年代の方々に読んでいただける『普及版』も刊行します。



R.5

通史
(上・下)

R.4

近世②
近代①
写真集

R.6 ~

テーマ編
普及版

R.3

先史
現代②
砂川の民俗

R.2

近世①
近代②

R.1

古代・中世
現代①
柴崎の民俗

H.31

地図・絵図



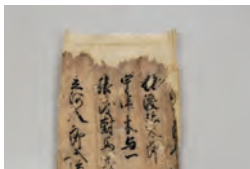
調査報告書の作成・広報紙『たちかわ物語』の発行・講演会や展示の開催



地中レーダー探査の様子
(令和元年9月)

地中レーダー (Ground Penetrating Radar : GPR) による探査

この探査は、地中に放射した電波が石などに当たった反応を捉えることで地中の様子を確認するものです。立川市には古墳とはっきりわかる遺跡はありませんが、沢稲荷のあるNo.13遺跡は古墳とされ、現在でも塚が残されています。GPR探査では、実際に発掘をおこなうことなく、塚の中の様子を捉えることができるのが大きな利点です。



修復後の立川文書の一部
(3ページ部会短信参照)

立川文書の修復

立川氏はいわゆる武蔵七党の西党に属する一族として知られています。立川文書は立川氏によって伝えられた古文書で、西暦1300年代の文書を中心に、原本と写本を合わせて14通が確認されています。立川氏の所領展開のようすがよくわかる貴重な資料であり、市内の紙資料として最も古いもののひとつです。古代・中世部会では、立川文書を詳しく調査するため、修復を行いました。



西和会自治会の神酒所で祭のお話を伺う (令和元年8月)

祭礼調査 (諏訪神社例大祭の調査)

祭礼などの行事について調査をする際、話者の方からお話を伺う聞き書き調査のほかに、調査者が実際に行事に足を運んで観察・記録をすることがあります。これを参与観察と言います (今号の部会特集に調査例があります)。民俗・地誌部会では8月の諏訪神社例大祭、9月の阿豆佐味天神社例祭などを対象に、毎年祭礼調査を行っています。

市史編さんプロフィール

名 前 産業文化スポーツ部地域文化課市史編さん担当
住 所 立川市錦町3-5-22 YAZAWA DEUX ビル201

立川市の歴史を編さん(資料をあつめて
調べてまとめる)する仕事です!!



市史編さん室引越しの記録

市史編さんの事務局は、平成27年4月、歴史民俗資料館の一室を借りて職員2名でスタートしました。同8月には専門嘱託5名が加わり、旧職員会館へ移転しました。旧職員会館は、昭和5年建築の木造住宅(右写真参照)で、資料保存などに耐えられるものではなく、準備室として一時的に使用しました。

平成28年4月には本庁舎内の会議室に移転し、資料の収集なども徐々に開始されました。その後、収蔵資料の増加に伴い、平成29年8月から現在の執務室に移転しました。現在はこの場所で常時8名の職員が執務を行っています。

市史編さん室のご近所さん

市史編さん室の近くには、立川南通りをはさんで子ども未来センターとたましん RISURU ホールがあります。

現在子ども未来センターがある場所は元々市役所があった場所です。現存しているのは昭和45年(1970)に建てられた第2庁舎で、まんがパークや錦連絡所等として今でも活躍しています。

子ども未来センターの東隣、大小ふたつのホールと会議室等があるたましん RISURU ホールは市民会館として昭和49年(1974)に開館しました。市史編さん担当が置かれる地域文化課の事務所もこちらにあります。



旧職員会館▶



市史編さん事務局の様子▶



昭和42年(1967)撮影、歴史民俗資料館蔵

◀写真中央は旧第一庁舎(現在は取り壊され、この裏手に建設された第二庁舎が現子ども未来センター)。昭和49年には写真右下の位置に旧市民会館が建てられました。

公文書の保存書庫

立川市の公文書を保管している書庫はいくつかありますが、実は子ども未来センターの中にも書庫があります。旧庁舎時代に文書庫として使われていた部屋の一部分が、市役所が移転した現在も文書庫として使われているのです。

ここには、長期・永年の保存が決まった公文書が多数保管されており、たとえば明治時代からの立川・砂川両議会の記録、まちづくりに関する様々な記録などが保管されています。立川市の近現代史を追いかけるうえで重要な資料を保管している施設なのです。



たちかわ創造舎

先史部会の活動拠点のひとつとして利用しているのが、富士見町六丁目にあるたちかわ創造舎(旧多摩川小学校)の作業スペースです。重くて場所を取る土器や石器などを長期に保管可能で、調査・整理作業に必要な広い作業スペースを確保でき、さらに歴史民俗資料館から近いという条件を満たしているため、この場所が選ばれました。

保管されている土器は修復途中で取り扱いに注意が必要なものもあるため、独立した作業スペースが確保されたこの場所は活動拠点として最適なのです。



今後の展望

平成から令和の時代をむかえ、市史編さん事業も後半戦となりました。前ページでご紹介した市史の刊行に向け、現在各専門部会ではこれらの編集作業に全力で取り組んでいます。また、長期的な視点では、市史編さん事業で収集されたたくさんの資料の保存・活用方法についても検討していかなければなりません。残された時間は長くはありませんが、長期的な課題を見据えつつ、多くの方に利用していただける市史の刊行を目指してまいります。(山下)